

年表

	丸山眞男年譜	社会・政治・文化の動き	加藤周一年譜
1914(大正 3)年	3 月、大阪府東成郡天王寺村で丸山幹治・丸山セイの第二子として出生	6 月、サラエボ事件 7 月、第 1 次世界大戦勃発 8 月、ドイツに宣戦布告	
1915(大正 4)年 丸山 1 歳		1 月、21 か条要求提出	
1916(大正 5)年 丸山 2 歳		7 月、第 4 回日ロ条約調印 8 月、津田左右吉『文学に現はれたる我が国民思想の研究』刊行始まる 9 月、工場法施行	1 月 11 日、加藤信一と増田ヲリ子が結婚
1917(大正 6)年 丸山 3 歳	5 月、兵庫県武庫郡精道村に転居	2 月、ロシア 2 月革命 9 月、事実上の金本位制の停止 7 月、段祺瑞への財政援助を決定	

1917(大正 6)年		10 月、ロシア 10 月革命	
1918(大正 7)年 丸山 4 歳	8 月、米騒動を目撃。丸山幹治、白虹事件により大阪朝日新聞社を退職	3 月、ブレスト=リトフスク条約締結 8 月、シベリア出兵宣言。大阪米騒動 9 月、原敬内閣成立 11 月、ドイツ革命、第 1 次大戦休戦	
1919(大正 8)年 丸山 5 歳		1 月、パリ講和会議始まる 3 月、3.1 運動 4 月、戦後ブーム始まる。『改造』創刊 5 月、5.4 運動 6 月、ベルサイユ条約締結	9 月 19 日、東京市本郷区本富士町にて加藤信一・ヲリ子の第一子として出生 出生後ほどなく東京府豊多摩郡渋谷村大字中渋谷に転居
1920(大正 9)年 丸山 6 歳／加藤 1 歳	4 月、精道尋常小学校に入学 巖谷小波『こがね丸』を読む 小学校時代を通じて立川文庫を読む	1 月、国際連盟設立 2 月、普選デモ 3 月、戦後恐慌始まる 4 月、ソビエト=ポーランド戦争始まる 7 月、安直戦争。森戸事件	10 月 20 日、渋谷村大字中渋谷にて妹久子が出生（中渋谷は 1928 年に金王町と改称される）

<p>1921(大正 10)年 丸山 7 歳／加藤 2 歳</p>	<p>4 月、東京府東京市四谷区麴町 に転居 この頃、初めて映画を浅草大勝 館で観る</p>	<p>3 月、ネップ採択 7 月、中国共産党創設 10 月、『思想』創刊 11 月、原敬刺殺される。ワシントン会 議始まる。皇太子、摂政就任</p>	
<p>1922(大正 11)年 丸山 8 歳／加藤 3 歳</p>	<p>この年、四谷区愛住町に転居。 四谷第一尋常小学校に転校。ス ラムの子どもともよく遊んだ</p>	<p>4 月、ラパロ条約 7 月、日本共産党結成 10 月、イタリアでファシスト政権成立 11 月、オスマン帝国滅亡 12 月、ソ連成立</p>	<p>この年、父信一、東京帝国大学附属病院 退職</p>
<p>1923(大正 12)年 丸山 9 歳／加藤 4 歳</p>	<p>9 月、関東大震災に関する文章 を執筆</p>	<p>1 月、ルール侵攻 9 月、関東大震災、戒厳令施行、モラト リアム実施</p>	<p>9 月、震災に遭遇し、母ヲリ子に背負わ れて逃げる</p>

<p>1923(大正 12)年 丸山 9 歳／加藤 4 歳</p>		<p>11 月、ミュンヘン一揆。孫文、「連ソ・容共・扶助工農」方針を出す。虎の門事件</p>	
<p>1924(大正 13)年 丸山 10 歳／加藤 5 歳</p>	<p>3 月、東京市学務課主催の「震災記念作品展覧会」に綴方「大震災火災中美談」が出展される 8 月、震災体験を記した『恐るべき大震災大火災の思い出』を製本 12 月、虎ノ門事件の判決の際難波大助が「共産党万歳」と叫んだことを父から聞く</p>	<p>1 月、第 2 次護憲運動。第 1 次国共合作。マクドナルド内閣成立 12 月、虎の門事件の判決。築地小劇場開場</p>	<p>この頃、カトリック系幼稚園に通い始めたが、なじめずにほどなく退園する</p>
<p>1925(大正 14)年 丸山 11 歳／加藤 6 歳</p>	<p>『荒木又右衛門』などチャンバラ映画を盛んに見る</p>	<p>2 月、治安維持法成立、普通選挙法成立 5 月、5.30 事件 10 月、ロカルノ条約</p>	

<p>1926(大正 15 / 昭和元)年 丸山 12 歳 / 加藤 7 歳</p>	<p>3 月、四谷第一尋常小学校を卒業。武蔵高等学校尋常科入学試験を受けるが不合格。東京府立第一中学校入学試験に合格。合格祝いに新宿武蔵野館で『ポー・ジェスト』を観る</p> <p>4 月、東京府立第一中学校に入学</p> <p>入学後、新宿武蔵野館で『カリガリ博士』を観る</p> <p>中学時代は『新青年』『現代日本文学全集』『世界文学全集』『現代日本戯曲全集』を耽読</p>	<p>3 月、労働農民党結成。中山艦事件</p> <p>5 月、英国炭鉱スト始まる</p> <p>7 月、北伐開始</p> <p>12 月、大正天皇崩御</p>	<p>4 月、東京府豊多摩郡渋谷町立常磐松尋常小学校（現・東京都渋谷区立常磐松小学校）に入学</p> <p>幼いころ病弱だったことが、運動を不得意にし、読書に親ませ文学書を好ませる</p>
<p>1927(昭和 2)年</p>	<p>2 月、大正天皇の葬列を観る</p>	<p>2 月、大正天皇大喪の礼</p> <p>3 月、金融恐慌</p>	

丸山 13 歳／加藤 8 歳		4 月、若槻内閣総辞職。モラトリアム施行。4.12 クーデタ 6 月、立憲民政党結成。東方会議	
1928(昭和 3)年 丸山 14 歳／加藤 9 歳	2 月、社会民主党候補・菊池寛の応援演説会を聞く 『グリーン家殺人事件』を原書で読む 浅草金龍館で初めてのオペラ 『カルメン』を観る 『丹下左膳』を観る	2 月、第 1 回普通選挙 6 月、張作霖爆殺事件。治安維持法改正 8 月、パリ不戦条約 10 月、ソ連・第 1 次 5 か年計画	この頃から祖父増田熊六に連れられて従兄たちと映画を見るようになる
1929(昭和 4)年 丸山 15 歳／加藤 10 歳	8 月、担任の指導によるものか日記をつける(『休暇日記』)。いくつか俳句もある	7 月、浜口雄幸内閣成立。第 2 次幣原外交・井上財政始まる 10 月、世界恐慌始まる 11 月、金解禁。産業合理化政策本格化	この頃、担任の松本謙次から理科の実験の手ほどきを受ける 同じくこの頃、学級で「小さな事件」が起き、加藤は担任の助け舟に乗ったが、級友たちを裏切ったと心の傷となる

1929(昭和 4)年 丸山 15 歳／加藤 10 歳			この頃、原田三夫編集『子供の科学』を愛読 この頃、菊池寛編集、芥川龍之介協力の『小学生全集』（全 88 巻）を愛読
1930(昭和 5)年 丸山 16 歳／加藤 11 歳	3 月、中学 4 年修了で第一高等学校入学試験を受けるが不合格 5 月、『嘆きの天使』公開 7 月、『学友会雑誌』に "Ononotofu and the Frog" を発表	1 月、ロンドン海軍軍縮会議（加藤の大 叔父岩村清一、随員として参加） 4 月、統帥権干犯問題 11 月、浜口雄幸狙撃される この年、昭和恐慌始まる	小学校 5 年修了予定で東京府立第一中学校の入学試験を受験して合格する この頃、成績優秀な大工の息子が、貧しさゆえに中学進学をあきらめざるを得なかったことに、社会的不平等を意識する この頃、父の書齋で万葉集の註釈本を披き、言葉の響きに感動する
1931(昭和 6)年 丸山 17 歳／加藤 12 歳	4 月、第一高等学校文科乙類に入学 5 月、東京市外高井戸町に転居	3 月、3 月事件 4 月、スペイン第 2 共和国成立 9 月、満洲事変 11 月、瑞金政府成立	4 月、東京府立第一中学校（現東京都立日比谷高等学校）入学 同学年に矢内原伊作、山本進、高坂知英が在籍するも在学時代の親交はなかった

<p>1931(昭和 6)年 丸山 17 歳／加藤 12 歳</p>	<p>9 月、『四平会会誌』に「ディー トリッヒを語る」を発表 高校時代を通じて新カント派の 原典を読む(リッケルト『認識の 体系』など) 映画『三文オペラ』(G・W・ バブスト監督)を観る</p>	<p>12 月、高橋財政始まる。金輸出再禁止</p>	<p>渋谷町大字金王町から同大字美竹町に転 居する この頃、自宅 2 階から夕陽の沈むのを 眺めるのを日課とする この頃、映画『三文オペラ』(G・W・ バブスト監督)を観る</p>
<p>1932(昭和 7)年 丸山 18 歳／加藤 13 歳</p>	<p>5 月、学生寮委員に選出。ポー ト部のストーム問題に対応</p>	<p>2・3 月、血盟団事件 3 月、満洲国建国宣言 5 月、五・一五事件。『日本資本主義発 達史講座』の刊行始まる</p>	<p>中学時代に『万葉集』に接し、芥川龍之 介を愛読し、芥川に導かれてアナトー ル・フランスへ関心を拡げていく</p>
<p>1933(昭和 8)年 丸山 19 歳／加藤 14 歳</p>	<p>4 月、唯物論研究会の講演会に 出席し、本富士署に検挙される 9 月、1 学期、乙類で成績 1 位。塙作楽から評語を送られ</p>	<p>1 月、ヒトラー首相就任 3 月、国際連盟脱退 4 月、京大事件 5 月、塘沽停戦協定</p>	<p>第一中学校になじめずに中学時代を「空 白五年」と表現する。中学時代には『学 友会雑誌』に一度も寄稿しなかった</p>

<p>1933(昭和 8)年 丸山 19 歳／加藤 14 歳</p>	<p>る。兄鐵雄、『大阪朝日新聞』 京都版に「戦友（大学の歌）」 を投書 尾崎弔堂「墓標の代わりに」を 読んで衝撃を受ける 高等学校時代にモーパッサン 『女の一生』『ミケランジェロ の生涯』を読む 映画『巴里祭』（R・クレール 監督）を観る</p>	<p>6 月、佐野学・鍋山貞親、獄中で転向声 明</p>	<p>この頃、映画『巴里祭』（R・クレール 監督）を観る</p>
<p>1934(昭和 9)年 丸山 20 歳／加藤 15 歳</p>	<p>4 月、東京帝国大学法学部政治 学科に入学 8 月、岡義武「政治学」講義の 課題レポートのために『日本資 本主義発達史講座』を熟読</p>	<p>4 月、帝人事件 9 月、関東庁職員総辞職を決議 この年、大財閥の満洲進出始まる</p>	<p>この頃、凶画のネギ（本名は高城次郎） 先生は監督なしの試験を試みたが、不正 が発生し、失敗に帰したことに強い衝撃 を受ける</p>

<p>1934(昭和 9)年 丸山 20 歳／加藤 15 歳</p>	<p>9 月、築地小劇場に通い始める 11 月、築地小劇場で新協劇団の『夜明け前』を観て感動し、原作を読む 映画『会議は踊る』（E・シャレル監督）を観る この年、宮沢俊義「憲法」、牧野英一「刑法」、末弘巖太郎「民法第一部」などを受講</p>		<p>この頃、映画『会議は踊る』（E・シャレル監督）を観る</p>
<p>1935(昭和 10)年 丸山 21 歳／加藤 16 歳</p>	<p>1 月、岡義武に課題レポートを提出 8 月、『緑会雑誌』懸賞論文執筆のために政治学の原書を集中的に勉強（ラスキ『理論と実際における国家』『危機に立つデモ</p>	<p>2 月、天皇機関説事件（国体明徴問題） 6 月、梅津・何応欽協定 7 月、第 7 回コミンテルン大会 8 月、8.1 宣言 10 月、エチオピア戦争始まる</p>	<p>中学 4 年修了予定で第一高等学校入学試験を受けるが不合格 夏、妹久子とともに初めて信州追分に逗留（以後、亡くなるまで夏季には追分に滞在することを常とする）</p>

<p>1935(昭和 10)年 丸山 21 歳／加藤 16 歳</p>	<p>クラシー』、ブライス『近代民主政治』など)</p> <p>映画『外人部隊』(J・フェデー監督)を観る</p> <p>この年、蠟山政道「政治学」、神川彦松「外交史」、末広巖太郎「民法第二部」、田中耕太郎「商法」、河合栄次郎の特別講義などを受講</p>		<p>追分は、堀辰雄、立原道造、中村眞一郎らと知りあう場となる</p> <p>この頃、映画『未完成交響楽』(W・フォルスト監督)を観る</p> <p>この頃、映画『外人部隊』(J・フェデー監督)を観る</p>
<p>1936(昭和 11)年 丸山 22 歳／加藤 17 歳</p>	<p>2 月、2.26 事件の性格をめぐって兄と論争</p> <p>4 月、南原繁「政治学史」受講、「開講の辞」に衝撃を受ける。南原の政治学史講義の演習</p>	<p>2 月、2.26 事件</p> <p>5 月、斎藤隆夫「肅軍演説」</p> <p>8 月、五相会議</p> <p>11 月、日独防共協定</p> <p>12 月、西安事件</p>	<p>2 月、中学校卒業直前に 2.26 事件に遭遇し、政治の冷酷さを実感する</p> <p>3 月、東京府立第一中学校卒業、卒業アルバムには、加藤の写真は見当たらず、記念撮影を拒んだと思われる</p>

<p>1936(昭和 11)年 丸山 22 歳／加藤 17 歳</p>	<p>「ヘーゲル『歴史哲学序説』」 に参加</p> <p>5 月、築地小劇場で新協劇団の『天佑丸』を観る</p> <p>8 月、松本武四郎のすすめでロマン・ロラン『ジャン・クリストフ』『ベートーヴェンの生涯』を読む</p> <p>9 月、緑会懸賞論文として「政治学に於ける国家の概念」を提出、入選</p> <p>12 月、南原繁のすすめで助手に応募、日本政治思想史を志す この年、末弘巖太郎「民法第三部」、大内兵衛「財政学」、中田</p>		<p>4 月、第一高等学校理科乙類入学。寄宿寮に入る</p> <p>4 月、庭球部と映画演劇研究部に所属</p> <p>高校時代、公開される映画のほとんどを妹久子と連れ立って観る</p> <p>ドイツ文学の片山敏彦、国文学の五味智英の授業にも出席</p> <p>また中村真一郎、大野晋、小山弘志らと五味智英が指導した『万葉集』の輪読に参加</p> <p>12 月、第一高等学校の『向陵時報』に「映画評「ゴルゴダの丘」」を藤沢正という筆名で発表（もっとも早い公表著作）</p>
---	---	--	---

<p>1936(昭和 11)年 丸山 22 歳／加藤 17 歳</p>	<p>薫「法制史」、蠟山政道「行政学」、矢内原忠雄「殖民政策」などを受講</p> <p>『ローザ・ルクセンブルクの手紙』、ウェーバー『経済史』「職業としての政治」「議会と政府」、マンハイム『イデオロギーとユートピア』などを読む</p>		
<p>1937(昭和 12)年 丸山 23 歳/加藤 18 歳</p>	<p>3 月、東京帝国大学法学部政治学科卒業。4 月に同学部助手となる。その後、憲兵隊に召喚される。また、本籍地の長野で徴兵検査を受ける</p> <p>5 月、南原繁の招待で文楽「八百屋お七」を観る</p>	<p>6 月、第 1 次近衛文麿内閣成立</p> <p>7 月、盧溝橋事件</p> <p>8 月、吉野源三郎『君たちはどう生きるか』(新潮社)刊行</p> <p>12 月、矢内原忠雄が東京帝国大学経済学部教授を辞職。南京占領、南京事件。</p> <p>第 1 次人民戦線事件</p>	<p>この頃、矢内原忠雄の授業に出たが、その授業は自由主義者の最後の「遺言」を聞いているのだと感じる</p> <p>この頃から「ノート」(『青春ノート』加藤周一文庫デジタルアーカイブで公開)を採りはじめ、創作、評論、日記の区別なく記す</p>

<p>1937(昭和 12)年 丸山 23 歳/加藤 18 歳</p>	<p>6 月、矢部貞治の講演を聞く 7 月、初めて発哺に行く 12 月、スキーから帰京後、肺炎 となり 3 か月休職 この年、吉野源三郎『君たちは どう生きるか』、古在由重『現 代哲学』、ドストエフスキー 『悪霊』、初期マルクスの著 作、ラスキ『近代国家における 自由』を読む 助手時代を通じてヘーゲル『精 神現象学』、ウェーバー『プロ テスタンティズムの倫理と資本 主義の精神』、ボルケナウ『封 建的世界像から市民的世界像</p>		<p>この頃、映画『新しき土』（A・ファン ク、伊丹万作監督 2 月、『向陵時報』に「映画評「新しき 土」」を発表 10 月、「劇評「アンナカレーニナ」」と 「劇評「土」」を『向陵時報』に発表 12 月、「劇評「キノドラマ新選組」を 『向陵時報』に発表</p>
---	--	--	--

<p>1937(昭和 12)年 丸山 23 歳/加藤 18 歳</p>	<p>へ』を読む。アテネ・フランセ でフランス語を学ぶ 助手時代に宮沢俊義に誘われ能 楽堂に行く</p>		
<p>1938(昭和 13)年 丸山 24 歳/加藤 19 歳</p>	<p>療養中に波多野精一『宗教哲 学』を読む 1 月、「1936-37 年の英米及び 独逸政治学界」を『国家学会雜 誌』に発表 4 月より、平泉澄の「日本思想 史」講義を聴く 9 月、応召するが即日帰郷。和 辻哲郎の「日本倫理思想史」講 義を聴く</p>	<p>2 月、第 2 次人民戦線事件 3 月、オーストリア併合 4 月、国家総動員法公布、電力国家管理 実現 9 月、ミュンヘン協定 10 月、武漢占領</p>	<p>1 月、小説「小酒宴」を『向陵時報』に 発表 2 月、小説「正月」(自選集 1 に収録)を 『校友会雑誌』に発表 3 月、発禁処分を受けた石川達三の「生 きてゐる兵隊」(『中央公論』)を読む。 処分漏れを入手したらしい 3 月、庭球部は退部 4 月、第一高等学校の『校友会雑誌』の 編集委員を務める。また文芸部委員も務 める</p>

<p>1938(昭和 13)年 丸山 24 歳／加藤 19 歳</p>	<p>12 月、劇団東童「君たちはどう 生きるか」を観る</p> <p>この年、福沢諭吉『文明論之概 略』、大塚久雄『株式会社発生 史論』『欧州経済史序説』、土屋 喬雄『日本経済史』、ジンメル 『哲学の根本問題』を読む。</p> <p>『民族の祭典』『美の祭典』を 観る</p>		<p>6 月、小説「従兄たち」を『校友会雑 誌』に発表</p> <p>11 月、小説「秋の人々」を『校友会雑 誌』に発表</p> <p>この頃、映画『舞踏会の手帖』（J・デ ュヴィヴィエ監督）を観る</p>
<p>1939(昭和 14)年 丸山 25 歳／加藤 20 歳</p>	<p>10 月より、津田左右吉の「東洋 政治思想史」講義を聴く</p> <p>12 月、津田左右吉、原理日本社 系学生から質問攻め。丸山が守 る</p>	<p>1 月、平賀肅学</p> <p>5 月、ノモンハン事件</p> <p>9 月、第 2 次世界大戦勃発</p>	<p>1 月、「マルキシズム」について「ノー ト III」に綴る</p> <p>2 月、「戦争と文学に関する断想」を 『向陵時報』に発表（著作集 8 に収 録）</p>

<p>1939(昭和 14)年 丸山 25 歳／加藤 20 歳</p>			<p>3 月、東京帝国大学医学部入学試験に不合格</p> <p>3 月、第一高等学校理科乙類卒業</p> <p>この頃、横光利一を座談会に呼び、論争を挑むことになる</p> <p>4 月、浪人生活始まる。予備校に通わず自宅で学習</p> <p>6 月、小島信夫、矢内原伊作らと同人誌『崖』の創刊に参加し、小説「春日抄」を発表、</p> <p>10 月、詩「窓」を『崖』に発表</p> <p>この年、ヴィットコップ編『ドイツ戦歿学生の手紙』、カロッサの従軍日記『ルーマニヤ日記』、レマルク『西部戦線異</p>
---	--	--	---

1939(昭和 14)年			状なし』、火野葦平『麦と兵隊』などを 読む
1940(昭和 15)年 丸山 26 歳／加藤 21 歳	2～5 月、「近世儒教の発展にお ける徂徠学の性質並にその国学 との関連」を『国家学会雑誌』 に発表 6 月、東京帝国大学法学部助教 授となる 9 月、「或日の会話」を『公論』 に発表 10 月より、村岡典嗣の「東洋政 治思想史」講義を聴く 10 月、昭和天皇が東京帝国大学 に行幸	2 月、齋藤隆夫「反軍演説」。翌月、議 員除名 7 月、第 2 次近衛内閣成立。大本営政府 連絡会議で武力行使を含む南進政策決ま る 9 月、北部仏印進駐。日独伊三国同盟成 立 10 月、大政翼賛会発会	この頃、「小林秀雄論序」「立原道造論 序」「立原道造論覚書」を「ノート」に 綴る 4 月、東京帝国大学医学部入学。 この頃、湿性肋膜炎を患い、一時生死の あいだを彷徨った この年から医学部の授業を受けながら も、文学部仏文研究室に出入りし、辰野 隆、鈴木信太郎、渡邊一夫の薫陶を受け る。中島健蔵、森有正、三宅徳嘉などと も知己を得る

<p>1940(昭和 15)年 丸山 26 歳／加藤 21 歳</p>			<p>この頃、夏季を過ごした追分では、一日中、フランス文学を読む。ことにポール・ヴァレリーを好んで読む</p> <p>この頃、太田正雄の「皮膚科学講義」を受講し感銘を受く</p>
<p>1941(昭和 16)年 丸山 27 歳／加藤 22 歳</p>	<p>6 月、独ソ戦が始まり、家で万歳を叫ぶ</p> <p>7 月から翌年 8 月にかけて、「近世日本政治思想における「自然」と「作為」——制度観の対立としての」を『国家学会雑誌』に発表</p> <p>11 月、『スミス都へ行く』を観る</p>	<p>4 月、日ソ中立条約。日米交渉始まる</p> <p>6 月、独ソ戦始まる。南部仏印進駐</p> <p>10 月、東条英機内閣成立</p> <p>12 月、対米英蘭開戦</p>	<p>この頃、藤原定家、実朝、西行、建礼門院右京太夫の歌集を読む</p> <p>医学部学生の同人誌『しらゆふ』に「嘗て一冊の『金槐集』余白に」を発表</p> <p>12 月 8 日、太平洋戦争開戦の日、「ノート」に「弾丸や飢えは僕を変へるであらう。勇気の要るのもその時であらう」と綴る</p> <p>同日、新橋演舞場で文楽の引っ越し公演を観たと『羊の歌』に記されるが、豊増</p>

<p>1941(昭和 16)年 丸山 27 歳／加藤 22 歳</p>	<p>12 月、対英米開戦の日に「この まま枢軸が勝ったら世界の文化 はお終いです」という南原繁の 一言を聞く この年、「津田左右吉博士の裁 判に関する上申書」の署名を集 める。E.H.ノーマンを知る</p>		<p>昇のベートーヴェン・ピアノソナタ連続 演奏会の最終回に行ったと思われる</p>
<p>1942(昭和 17)年 丸山 28 歳／加藤 23 歳</p>	<p>2 月、蠟山道雄と発哺ヘスキー 旅行 3 月、東京帝国大学東洋文化研 究所員を兼ねる。東洋学会設立 に参加 4 月、「福沢諭吉の儒教批判」を 『東京帝国大学学術大観 法学 部 経済学部』に発表</p>	<p>4 月、米空軍による日本本土初空襲。翼 賛選挙 6 月、ミッドウェー海戦で敗北 9 月、細川嘉六、『改造』掲載論文を理 由に検挙（横浜事件の発端となる）。座 談会『近代の超克』（『文学界』）</p>	<p>4 月、《ほろびしものは美しきかな》と いう句をもって「青春ノート」（人文書 院）の記述は終わる 11 月、「物象詩集に就いて」を『四季』 に発表 秋、中村眞一郎、福永武彦、窪田啓作ら と文学者集団「マチネ・ポエティック」を</p>

<p>1942(昭和 17)年 丸山 28 歳／加藤 23 歳</p>	<p>5 月、歴史学研究会日本史部会で「近世封建社会の基礎づけ方の二態様」という題で報告</p> <p>6 月、「神皇正統記に現はれたる政治観」を『日本学研究』に発表</p> <p>10 月、東京帝国大学法学部政治学政治学史第三講座を担当</p>		<p>結成。主として加藤の自宅に定期的集まり、創作作品の朗読を行なう</p> <p>この頃、カソリック指導者岩下壮一の著作をさかんに読み、岩下に師事した倫理学の吉満義彦の講義を受ける</p>
<p>1943(昭和 18)年 丸山 29 歳／加藤 24 歳</p>	<p>11 月、「福沢に於ける秩序と人間」を『三田新聞』に発表</p> <p>安井郁の招きで辻清明と『フィデリオ』の日本初公開を観て落胆する</p>	<p>1 月、谷崎潤一郎『細雪』連載禁止される</p> <p>2 月、ガダルカナル島撤退</p> <p>9 月、イタリア無条件降伏</p> <p>12 月、学徒出陣始まる</p>	<p>9 月、東京帝国大学医学部を繰上げ卒業。同大学付属病院佐々内科に助手として勤務。</p> <p>11 月、詩「妹に」(2 編)を『向陵時報』に発表</p> <p>この頃、中尾喜久、三好和夫に徹底して血液学と実証主義的方法を叩きこまれる</p>

1943(昭和 18)年			
1944(昭和 19)年 丸山 30 歳／加藤 25 歳	<p>3 月、小山ゆかりと結婚</p> <p>5 月、文学座「富島松五郎伝」を観る</p> <p>7 月、応召。出発日の朝まで「国民主義の「前期的」形成」の後半部分を執筆。朝鮮の平壤に向かうが脚気となり、平壤第二陸軍病院に入院</p> <p>10 月、退院。召集解除。</p> <p>12 月、新交響楽団のベートーヴェン第 9 番交響曲を聴く</p>	<p>6 月、マリアナ沖海戦</p> <p>7 月、東条内閣総辞職。横浜事件により中央公論社と改造社が解散を命じられる</p> <p>10 月、レイテ沖海戦</p>	<p>5 月、戯曲「トリスタンとイゾーとマルク王との一幕」を『向陵時報』に発表</p> <p>この頃、日中には医局に詰め被災者の治療に当たり、夜間は病院に寝泊まりし、フランス文学を読みふける生活となる</p>
1945(昭和 20)年 丸山 31 歳／加藤 26 歳	<p>3 月、再応召。広島市の陸軍船舶通信連隊、陸軍船舶部隊に配属</p>	<p>2 月、ヤルタ会談</p> <p>3 月、東京大空襲</p> <p>4 月、米軍沖縄上陸</p>	<p>3 月、東京大空襲に際し大学病院で被災者の治療にあたる</p>

<p>1945(昭和 20)年 丸山 31 歳／加藤 26 歳</p>	<p>4 月、陸軍船舶司令部参謀部情報班に転属(入手した情報は『備忘録』にまとめる)</p> <p>8 月、広島原爆投下に遭遇し被ばく。母セイ死去。谷口太郎少佐に満洲事変以後の日本政治史を講義</p> <p>9 月、召集解除。ノーマンのために東京帝国大学図書館蔵の安藤昌益『自然真営道』の資料選択を行う</p> <p>尾形典男らとラスキ“A Grammar of Politics”の読書会を始める</p>	<p>5 月、ドイツ降伏</p> <p>7 月、ポツダム会談</p> <p>8 月、広島・長崎に原爆投下。ポツダム宣言受諾、玉音放送</p> <p>9 月、降伏文書に調印。アメリカ大統領対日方針発表。GHQ、軍需生産全面停止を指令。三木清獄死</p> <p>10 月、5 大改革始まる。治安維持法廃止。国際連合成立</p> <p>11 月、財閥解体</p> <p>12 月、婦人参政権。労働組合法公布</p>	<p>春、東京帝国大学医学部佐々内科教室とともに信州上田の結核療養所に疎開した</p> <p>7 月下旬、報道の論調が「徹底抗戦」から「国体護持」に変化するのを察知する</p> <p>8 月、上田で敗戦を迎える。周囲の加藤に対する態度が一変することを感じた</p> <p>9 月、信州上田から帰京し、焼け野原の東京を目撃する</p> <p>この頃、東京都目黒区宮前町に転居</p> <p>10 月、日米「原子爆弾影響合同調査団」の一員として約 2 か月間広島市宇品に滞在し、治療と調査に従事する。戦後、このときに知り合ったメイスン博士を仲介にして、米国留学を図った（しか</p>
---	---	--	---

<p>1945(昭和 20)年 丸山 31 歳／加藤 26 歳</p>	<p>10 月、田中耕太郎、高木八尺、 高坂正顕とともに近衛文麿に面 会。青年文化会議結成に参加 11 月、緑会で講演 12 月、三島文化協会主催の講演 会で講演 復員後、渋谷の映画館で『ペ ペ・ル・モコ』を観る</p>		<p>し、1949 年の母ヲリ子の逝去を契機 に、沙汰止みになる)</p>
---	---	--	---